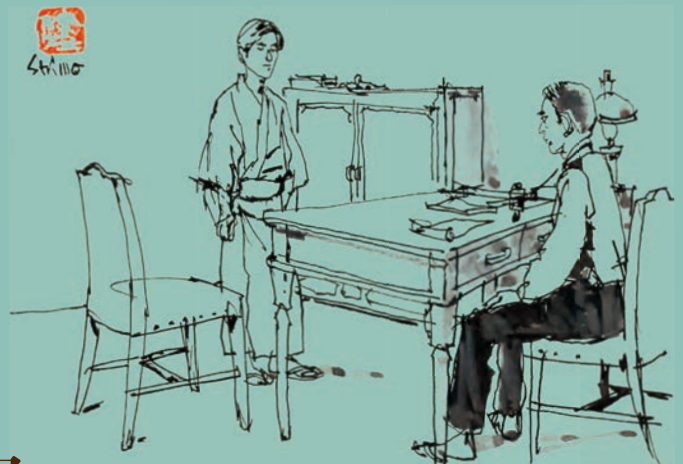


# 『坂の上の雲』のひとびと メッセージ

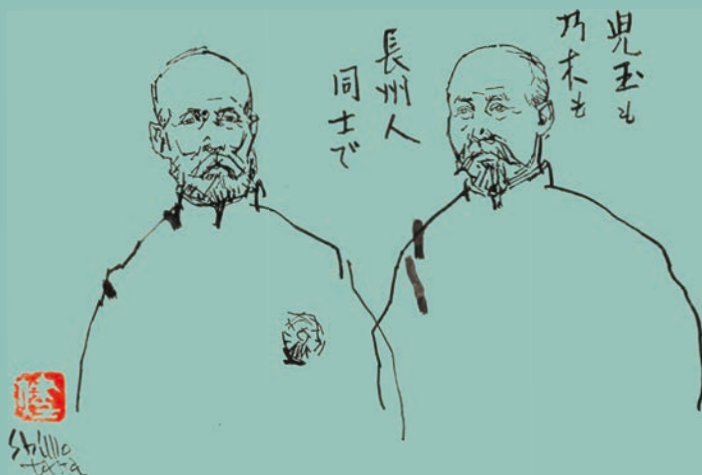
正岡子規

陸羯南



児玉源太郎

東郷平八郎



金子堅太郎

小村寿太郎



ルーズベルトと  
金子堅太郎



第14回企画展テーマ展示

2020年2月22日(土)ー2022年2月13日(日)

※ただし、2021年2月15日～2月23日までは休館

休館日：毎週月曜日(休日の場合は開館) 開館時間：午前9時-午後6時30分(入館は午後6時まで)

観覧料：一般 400円(320円) 高校生 200円(100円) 高齢者(65歳以上) 200円(160円)

※中学生以下は無料 ※( )内は20名以上の団体割引料金

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

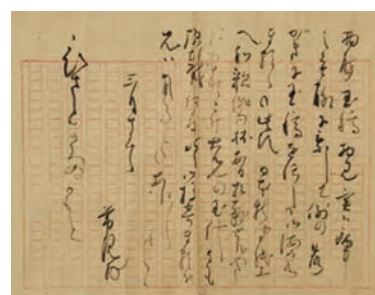
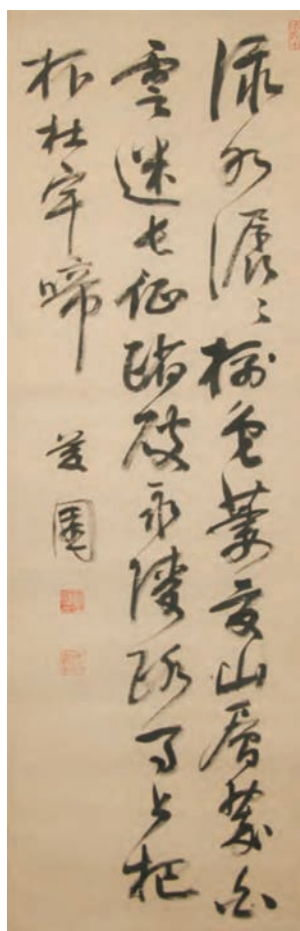
# 第14回企画展テーマ展示

## 『坂の上の雲』のひとびと メッセーじ

明治維新によって近代国家として歩み始めた日本。この小さな国の新しい国民は、時代の高揚感の中で自らの信じる道を切り拓いていきました。

小説『坂の上の雲』には三人の主人公をはじめ、時代を懸命に生きた多くのひとびとが登場します。政府批判も辞さない鋭い論説を展開しながら、限らないやさしさで子規を支え続けた陸羯南。日露戦争という巨大な試練に対し、知恵を絞り、決断力をもって乗り越えた東郷平八郎や児玉源太郎。国家を背負って諸外国と粘り強く交渉し、日露戦争の講和を成し遂げた小村寿太郎や金子堅太郎。かれらは、言論、軍事、外交のトップランナーとして、新しい時代の担い手となりました。

今回の企画展では、『坂の上の雲』に描かれたひとびとが、それぞれの置かれた状況でどのようにふるまったかを紹介し、令和という新しい時代を歩み始めた現代人へのメッセーじとするものです。



1. 菊池寿人あて正岡子規書簡（明治26年）3月13日（個人蔵）
2. 陸羯南の革製角型カバン（個人蔵）
3. 金子堅太郎自筆書入本『日本教育の将来』
4. 児玉源太郎漢詩
5. 東郷平八郎ほか第一艦隊首脳部集合写真（個人蔵）
6. 日露全権大使ハ米国ボーツマウスノ議場ニ於テ講和談判會議之光景挿絵／原画：下高原健二（石川武美記念図書館所蔵）

## 坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600  
E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:https://www.sakanouenokumomuseum.jp/

- アクセス
- ・JR松山駅から [所要時間約10分]
  - ・道後温泉から [所要時間約10分]
  - ・松山空港から [所要時間約30分]
  - ・松山観光港から [所要時間約30分]
  - ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分]
- 市内電車（道後温泉行）—— 大街道下車—— 徒歩2分  
市内電車（全線）—— 大街道下車—— 徒歩2分  
リムジンバス（道後温泉行）—— 一番町下車—— 徒歩2分  
リムジンバス（道後温泉行）—— 一番町下車—— 徒歩2分

